



このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の保育・教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

架け橋プログラム だより

今年度の参考に！

幼保小推進地区の報告より

♥ 2月に、幼保小連携推進地区と接続期カリキュラム研究推進地区の取組の報告会を行いました。各地区の報告は、各園・学校で参考にしたいことがたくさん！大人同士の連携が豊かな子どもの育ちや学びをつくること、子ども観や保育観・授業観を共にすることで主体的で探究的な学びが繋がっていくこと、など、これからの保育や授業づくり、架け橋期プログラムの参考になる実践がたくさんありました。幼保小で連携することは、一人一人の子どものこれまでの育ちとこれからの育ちを尊重することなんだということが伝わります。

《やりたい！を生かした 架け橋期カリキュラムで》

（園での姿） 子どもの「やりたい！」を活かした環境を構成することにより、自らの興味に向かい、遊びが広がり、疑問や不思議を探究、解決していく姿が育ちました。「学びの芽生え」とらえ、保育士がわくわくするような言葉をかけたり、一緒に考えることでますますその姿は深まってきました。

（小学校での姿） 生活科を中心に、各教科の授業・活動に遊びの要素を取り入れ、学習への興味関心を喚起したり、各教科等の学習の中で子どもたちが自分の思いや考えを表現できる場面、協働的に学ぶ機会を重視したりしてきたことで、子どもたちの「楽しみでしかたがない」という気持ちが膨らんでいく学習活動を展開することができました。



《子ども主体の場を増やすと…》

スタートカリで子ども主体の場を増やしました。すると、子どもがいろんな「はてな？」を見つけてきました。探究的に学ぶ姿がたくさん見られました。

子ども主体の場を増やす



《園・学校生活は自分たちで創っていける》

学校が楽しい、学ぶことが楽しい、友達と一緒に楽しい、楽しい学校生活は自分たちで創っていくことができる、と思える子どもが増えてことが最大の成果でした。

《全職員参加の研修会で理解を因る》

10の姿を共通理解したり、デザインシートを使って子どもの姿を語り合ったりした「全職員参加の研修会」で、子どもの学びを見取り、つなぐことを再確認することができた。

《明日も楽しみ！という子どもの姿が》

園の先生と協力してなかよしタイムの工夫をしてみました。学校って楽しい！明日のなかよしタイムも楽しみ！という声がたくさん聞かれました。

《互いを知ることでつながりが分かる》

お互いに施設を訪問し合うことで、「互いを知る」ことができた。共通の視点として10の姿を通して子どもを見取ると、育ちや学びのつながりがわかり、園における遊びを通じた学びについても理解を深めることができた。

《日常的な交流》

保育園の子どもたちが、毎月「園だより」を届けてくれます。園児は校庭で体育をしている小学生を目で追ったり、遊具で遊んだり、「ちょっとだけ小学校体験」をしていきます。小学生も園の先生に会えて嬉しそうです。日常的な交流は園と学校双方の子どもたちの安心につながっています。

《校内組織を発足し全校で取り組む》

入学準備委員会を発足し、幼保小連携について組織で動くことができた。低学年の担任だけでなく、校内全体に連携事業について発信できたことは、大きな成果である。

